

NPO/NGO アジア キッズ ケアだより

住所：〒791-3131 愛媛県伊予郡松前町北川原 1054-7 発行者：代表 喜安美紀 発行日：2009.4.21(通巻第3号)
HP：<http://www12.plala.or.jp/asian-kids-care/> E-mail：kids@zpost.plala.or.jp 設立：2004.2.11
TEL：090-5912-4515 FAX：089-985-0389 郵便振替口座番号：01600-5-13009 口座名義：アジア キッズ ケア

アジアキッズケアの支援活動に御協力・御参加いただきまして、心より御礼を申し上げます。

支援者の皆様に会報第3号をお届けさせていただきます。今回の内容は、平成20年度の活動報告、日本の子どもたちによる支援活動紹介、日本のNGO等の国際支援活動についてといった内容です。

今後も、引き続きまして、当方の支援活動への御参加・御協力をよろしくお願いします。

2009.4.21

アジア キッズ ケア代表 喜安 美紀

支援物資(衣類、文具、楽器、日用品等)の発送

平成20年度は、四国労働金庫より助成をいただきまして、新たに、4月に、インド・ケララ地域に対して支援物資の発送、12月には、中部アフリカのマリ・カティに支援物資を発送しました。支援物資は、これまで9か国・12か所(インド、カンボジア、ネパール、タイ、韓国、マラウィ、ザンビア、ガーナ、マリ)の子どもたちに、現地協力者と連携して、「ハンド to ハンド」で届けております。

インド・ケララは、インドの北部に位置し、現地協力者のロイ牧師が運営している孤児院に支援物資を送付し、近隣の貧しい子どもたちにも配布していただき、お礼のお便りと写真が届きました。



また、マリに対しては、愛媛大学大学院農学部の留学生コナリーさんとともに、12月に支援物資を発送しました。約6ヶ月後には、物資が現地に着きますので、彼の母国のご両親の協力を得て、貧しい困難な状況にある子どもたちに届けます。彼は、子どもがとても大好きで、留学生仲間と支援物資の荷造りに来ていた松山市内の小学校に出向いて、現地のことを紹介し、福笑い等の日本の遊びを一緒に楽しみました。

一方、国内では、愛知県の青年グループ「Love&Free」の皆さんが、近隣の方々の協力を得て支援物資を20箱程度送ってくれました。彼らは、「世界に苦しんでいる子供がいるという現実と正面から向き合い、今の僕等のできることをやってみよう」ということで、チラシを配るなどして、一生懸命収集活動に取り組んでくださいました。「これからも、国と国ではなく、人と人、同じ命の重みで付き合える友達を増やしていきたい」と手紙に綴られていました。こうした日本の青年たちの思いと行動をととてもうれしく感じています。

<平成20年度における支援物資の発送先>

- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| ・2008. 4 インド：ケララ(3) | ・2008. 5 韓国：羅州市(3) |
| ・2008. 6 カンボジア：カンボート、コンボンチャナン(6) | ・2008. 7 インド：チェンナイ(5) |
| ・2008. 8 ガーナ：アクラ(5)、インド：チェンナイ(3) | ・2008. 9 マラウィ：リロングウェ(5) |
| ・2008.10 ザンビア：カフィー(4) | ・2008.11 インド：ケララ、カシミール(4) |
| ・2008.12 マリ：カティ(4) | ・2009. 1 カンボジア：カンボート、コンボンチャナン(6) |
| ・2009. 2 ガーナ：アクラ(4)、韓国：羅州市(3) | ・2009. 3 マラウィ：リロングウェ(7) |

日本の子どもたちによるアジア・アフリカの子ども支援活動

私達の支援活動は、全国の皆様の善意に支えられておりますが、特に、日本の小・中・高等学校等の子どもたちがアジアやアフリカの子ども支援活動に参加してくださっていることを大変喜んでおります。子どもた

ちの純粋な思いと直向きな行動力、そしてご指導くださっている先生方の暖かいお心に敬服しております。

この1・2月には、さくら小学校・郡中小学校・港南中学校・日吉中学校の皆さんが、支援物資を事務所に届けてくださり、希望した子どもたちがパッキング・ボランティアにも参加してくれました。

私たちは、こうした支援活動の中で、支援活動は現地の子どもたちにとって必要であるとともに、日本の子どもたちにとっても、たいへん大切な活動であると実感するようになりました。当初、この思いはそんなに強く持っていませんでしたが、外国の困っている子どもたちの立場で自分たちにできることを考えたり、自分の生活を見直したり、自分が人の役に立っていることを実感したりする中で、子どもたちが成長をする姿を目のあたりして、それをはっきりと感じるようになり、これを伝えていかなければならないと考えようになりました。このようにいろいろなことを教えてくれた子どもたちに、心から感謝しております。



お元気ですか。この前、段ボール詰めに参加させてくれたさくら小の6年生です。この間は、いい体験をさせていただきありがとうございました。私たちは、このような活動をしてみて、一言で世界の仲間力になりたいというけど、いろんな人たちの協力が必要なんだと改めて実感しました。世界の仲間たちの力になりたいという6年生の気持ちを受け入れて協力して下さい、本当にありがとうございました。(Tさん、Oさん)

ぼくたちは、アジアキッズケアのみなさんが行っている活動をさせていただき、よい体験になったと思います。そのおかげは、使わなくなった文具を集める活動することによって、とても喜ぶ人からです。さくら小学校の下学年の人たちにも、この活動を受けつけてもらいたいと思いました。人を助ける活動を自分からする人になってほしいからです。今回、アジアキッズケアの活動に参加させていただきありがとうございました。(H君)

1月に引き続いて、2月の荷造りボランティアには、残りの物資をもって、私と、希望している児童が行く予定です。まだ、おうちの方と相談中なのですが、たぶん数名は行くことになると思います。どうぞ宜しくお願いいたします。また、昨日、コナリーさんのお友達も連れてさくら小学校へ来て下さいました!!! 物資を送った先の国のことや、初めて聞く国のことについて、学習することができました。よいご縁をさせていただき、ありがとうございます。(M先生)

日本のNGO団体等による国際支援活動はどうあるべきなのでしょうか？

政府によるODAや国連のユネスコ等の国際支援活動などは、人件費・事務所経費・広報費・旅費等の巨額な予算を計上でき、大きなプロジェクトを実行できますが、逆に弾力性・即応性に欠け、末端の困窮者への細やかな支援・配慮が行き届きにくいと言った面があります。

NGO団体等の働きは、これらを補完するものであり、現地と直接つながり、現地の方々とともに、現地のニーズに応じて、最前線で問題解決を図るために機動的、継続・発展的な活動を行うことができると思っています。でも、全てのNGOが同じとは限らず、現地の誰と繋がっているかが重要なポイントになります。

アジアキッズケアでは、支援活動のベースとして、①現地の方々为主体となって支援活動を推進する。②現地協力者と支援活動のポリシーとビジョンを共有する。③現地協力者との協働・連携により、支援活動を継続・発展していく。以上のことが、大切であると考え、実践するようにしています。

日本人が考えた支援が、現地の実情に必ずしもマッチするとは限りません。例えば、物資の中に、送付先のニーズのないものが入っていたのでは、善意の押しつけになったり、単なる自己満足になってしまいます。

もう一つの切実な問題は、日本から現地に送付される支援物資の多くが、本当に支援を必要とする生活困窮者の手に届いていないという現実です。留学生たちと話していても、実際に彼らが見聞きしている状況は、現地の港で陸揚げされるコンテナなどの多くが、ブローカーの標的にされ、支援物資が横流しされたり露店で販売されたりすることが多いということです。

こうした状況だからこそ、信頼できる現地協力者と連携し、本当に支援を必要としている子どもたちへの「ハンド to ハンドによる支援」「不特定多数ではなく一人の孤児を大切にしたい支援」にこだわった活動を進めていきたいと思っています。そのためには、全国の支援者の皆様とアジアキッズケアと現地協力者の心の通じ合った支援のバトンリレーがどうしても必要になります。どうか、これからもよろしくお願いします。